

令和３年度 第１回 清瀬市史編さん委員会
議 事 要 旨

日 時： 令和３年 11 月 15 日（月）

午後 3 時～4 時

場 所： 市民協働ルーム（本庁舎 2 階）

出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、浅倉直美、吉田律人、黒川徳男、齊藤隆雄、
齊藤靖夫、岡田耕輔、黒田一美、今村広司 （11 名）

欠席委員： 小西一午（1 名）

事 務 局： 市史編さん室長、市史係 1 名（2 名）

《次 第》

1. 開 会
2. 今村統括監の清瀬市史編さん委員就任について
3. 『清瀬市史 4 資料編 近世』の進捗状況について
4. 専門部会活動状況について
5. 『市史研究 きよせ』第 7 号について
6. 市史講演会について
7. 清瀬市史編さん委員会の開催回数について
8. その他
9. 閉 会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和３年度 第１回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『清瀬市史 6 資料編 現代』について【資料Ⅰ】
3. 『市史研究 きよせ』第 7 号 構成案【資料Ⅱ】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長 時間になりましたので、今年度第 1 回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

コロナの状況のなかで委員会もなかなか開けず、また、市史に関する調査なども対面でできなかった時期が続きましたが、ズーム会議などを行った部会もあり、なんとか市史編さんは進んでおります。調査のなかでさまざまな発見も出ており、それをふまえて今回、ご提案したいこともあります。よろしくお願い致します。

議事を進めます前に、配布資料について事務局よりご説明いただきます。

事務局 (配布資料について説明)

2. 今村統括監の清瀬市史編さん委員就任について

委員長 今村部長が統括監となられ、清瀬市史編さん委員に就任されました。このことにつきまして、事務局からご説明ください。

事務局 清瀬市史編さん委員会運営規則第3条第4項の規定に基づきまして令和3年11月15日付で、清瀬市長が今村統括監を清瀬市史編さん委員に任命いたしましたので、ご報告します。

委員長 今村統括監から、ひとこといただけますでしょうか。

統括監 いつもお世話になっております。統括監ということですが、企画部長であることに変わりはなく、ただ、庁内の調整役を担いなさいということで、6月に市長から新たに統括監を拝命しております。この編さん委員として中澤副市長が務めておりましたが、前回委員会でお話いたしました通り2月に急逝され、その後任として私が清瀬市史編さん委員を務めることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 よろしくお願いします。統括監ありがとうございました。

3. 『清瀬市史 4 資料編 近世』の進捗状況について

委員長／近世部会長 次に、議題3『清瀬市史 4 資料編 近世』の進捗状況について、部会長の私からお話させていただきます。

現在、少し遅れている状況です。8章仕立てのうち、4章分は入稿され、そのうちの2章分は初稿が戻っている状況ですが、あとの章について調整が手間取っており、入稿が遅れています。ただ、年度内2月中には出せるのではないかと考えております。本来でしたら、令和3年の秋に出ている予定ですが、遅れておりまして、お詫びと状況をご報告しており

ます。

それぞれの資料を載せるだけではなく、難解な語句に注を付けたり、内容を示すような文章を付けており、内容を確認しつつ作業を進めなくてはなりませんので、時間をとられておりますが、古い文書の内容を少しでも市民の皆さまにわかりやすい形でご提示するために努力しておりますので、ご理解いただけたらと思います。

議題 3 につきましては以上ですが、ご意見などございますか。
よろしいでしょうか。

委 員 長 了承

4. 専門部会の活動状況について

委 員 長 では次に、専門部会の活動状況について、時代順に各部会長から今の状況をご説明いただければと思います。

まず、考古部会について谷口先生お願いします。

考古部会長 簡単に現状をご報告します。考古資料編は、すでに前回までの委員会でお話しておりますように、目次構成と執筆分担等は決まっており、その分担に沿って調査を進めています。

部会は、今年度 1 回、オンラインで開催しました。巻頭に掲載するカラー写真の撮影を写真家の小川忠博さんをお願いし、進めております。

それに関連しますが、市内出土の主な縄文土器について、今後、市の文化財としても活用できるように、きれいに修復しなおしています。修復後、巻頭掲載用の写真撮影をしていく予定で修復を進めています。

また、野塩前原遺跡という縄文中期の集落遺跡から出土した土器のなかに、ダイズの種子圧痕が表面に 27 点ついている興味深い資料があります。これがダイズの種子であることは既に調査で確認しておりますが、土器の中にも、どうもたくさんの種子が練りこまれているようだということで、東京都埋蔵文化センターに依頼しまして X 線 CT 撮影をしましたところ、土器の中にも同様の圧痕があることを確認しています。

それから、旧石器時代の資料で未報告となっている遺跡の出土資料の整理を進めてきたのですが、現在、強清水遺跡の旧石器時代の整理を進めています。また、下宿内山遺跡から出土した近世の陶磁器類は、江戸市中から出土した遺物はたくさんあるものの、郊外の村落部分で出土した資料は今日でも非常に重要なものだということで、その方面の考古学研究も進んでいるので、今日の眼で鑑定をし直したり、評価をし直した

りといった作業を進めています。

そのほか、寄贈資料などがあり、そうしたなかから資料編に掲載できる資料を選んでいる、といった作業を進めています。

委員長

ありがとうございます。では、各部会の活動予定を続けて発表いただき、ご質問は後からお受けしたいと思います。

次に、古代・中世部会について、浅倉先生お願いします。

古代・中世部会長

古代・中世部会は、みなさまのご協力を得て、資料編と補遺を刊行させていただきました。調査の段階で撮影した史料写真について、これは清瀬市の財産ですので、市にお渡ししなければならないのですが、そのための整理作業を進めております。単に画像をお渡ししただけでは後の活用が難しいと思いますので、一つ一つの画像について、撮影年月日と名前など史料内容がわかるようにしてお渡しできるよう作業をしているところです。

また、補遺も出させていただいたところではありますが、山内上杉氏関係の史料について集められているのは、今わかっているうちの半分ほどです。山内上杉氏に関連する自治体はたくさんあるので、清瀬で始めればきっと、ぜひうちも、と名乗りを上げてくださると思いましたが、なかなかその声が聞こえず、清瀬で地道に収集を続け、市史研究などで発表していくことになろうかと考えているところです。コロナの状況も少し良くなりましたので、そのあたりも含め、活動が続けていきたいと考えているところです。

委員長

ありがとうございます。近世につきましては、さきほどお話しした通りですので、続いては、近代部会の活動について、吉田先生お願いします。

近代部会長

近代部会は、現代部会と合同で、月 1 回のペースでオンラインを活用しながら、情報交換と刊行に向けての打合せを行っています。

博物館所蔵の文書についても調査をしています。と同時に、活動しながら感じたことですが、文字だけでは追いきれないものがあります。伝承や人々の生活については文章に残らないものがあります。そこで、部会の専門調査員である高久先生を中心に民俗学のグループを組織して、聞き取り調査などを進めていく予定です。

私自身も関わったのですが、9月に銭湯を経営していたご夫婦からお話を伺いました。清瀬に昨年まで3軒あった銭湯が、一気になくなりました。こうした変化も記録に残しておかなくてはと考えています。

委員長

それでは、現代部会について黒川先生お願いします。現代部会は来年度、資料編の刊行を予定しています。

現代部会長

時間の関係もありますので、手短にお話したいと思います。お配りし

た資料にあります『清瀬市史 6 資料編 現代』タイムスケジュール」をご覧ください。刊行予定、納品予定が来年 11 月末ということを見据えてスケジュールを作ってみました。

まず、年内に掲載史料だけの原稿を作成し、年明け 1 月から 4 月末のゴールデンウィークにかけて、解説の原稿を作成します。

現代編については、その特徴として、史料が生々しいということがあり、人名や番地、人権にかかわる表記などについては、事務局側にチェックしていただき、それを前提に修正していく、という形でやっていきたいと考えています。

次に、目次案をご覧くださいと思います。2 枚にわたっています。基本的に、まず一章としまして、清瀬にかかわる地誌類や行政が出した概要により、「清瀬のすがた」を掲げます。これは、清瀬についてあまりご存じない方や、新しく住民になった方にとって非常に有益であろうと考えます。

以降、基本的には時系列の展開になるのですが、特に戦後部分については、例えば戦後改革や町制施行については、嶋田村長、のちに町長になりますが、その時代ですね。高度成長期は渋谷邦蔵市長の時代、さらに安定成長からバブル経済への時代も渋谷邦蔵市長の時代、そして平成不況下の時期については星野繁市長の時代というように、日本経済全体の在り方と、清瀬の首長の存在は、リンクするような形になっています。ただ、すべてを時系列でやれるかというのと、そうではなくて、むしろ特徴を出すために、時系列ではないところがところどころにあります。

このことにしては、もう 1 枚の資料「構成・担当・ページ数について」と書かれたものをご覧ください。「3.基本的方針と特色」の(1)に独立した章立てとする項目を 6 つ挙げました。例えば、青年学校日誌。昭和 6 年から昭和 20 年 3 月までの清瀬の青年学校日誌が大量に出てきましたので、それで一つの章にします。

また、農地改革ですが、清瀬は対立の激しかったことが特色です。博物館に移管された行政文書のなかに農地改革に関する異議申し立ての文書が多くありますので、これで一章を設けます。

さらに、伝統文化や神社、寺院についても、時系列にはなじみませんので、これも独立した章を立てます。また、現時点では医療、また結核療養と文化人について、これらについては時系列からはずして章立てすることにより、清瀬の特色を出していきたいと考えています。

特に、結核と文化人の部分については、多くの図版や写真を資料として掲載します。他の部分もある程度そうしたいのですけれども、市民の

方にとっても親しみの持てるビジュアルな性格を持つ資料編にしていきたいと思います。以上です。

委員長 ありがとうございます。考古から近代、現代まで、活動予定をお話しいただきました。特に、現代については来年、資料編の刊行が予定されていますので詳しくお話いただきましたが、なにかご意見、ご質問等ありますでしょうか。

 よろしいでしょうか。

委員 了承

5. 『市史研究 きよせ』第7号について

委員長 では続いて『市史研究 きよせ』第7号について、事務局からご説明ください。

事務局 お手元にお配りしました【資料Ⅱ】に、第7号の構成案をお示ししております。

 基本的には、例年通りの構成を考えております。今回は、現代部会の方で、リハビリテーション学院の資料調査を行った報告をお出しいただきます。また、さきほど近代部会長からもお話がありましたが、民俗グループが新たに組織されましたので、そのご紹介をしたいと思います。

 また、事務局の方で新しいブログ「きよせ結核療養文学ガイド ブンガくんと文学散歩」を始めたのですが、これをご紹介するページを取りたいと考えています。

 現時点で、本文に10ページから18ページ程度につきまして、まだ内容が決まっておきませんので、どちらかの部会でご報告いただけることがありましたら、お書きいただきたいと思います。

 「石碑・石仏探訪」につきましては、齊藤隆雄委員はじめ、ご協力いただける方があればお願いしたいと考えています。また、民俗グループも始動しておりますので、そちらの活動から分かったことなどをお書きいただくのもひとつかと思っているところです。

委員長 本文の10～18ページについて、調査員の方でどなたか書いていただければというお話ですが、何かご提案はありますでしょうか。

 原稿はいつごろまでと考えればよろしいですか。

事務局 年度末刊行ですので、原稿を1月末までにいただければと思っております。

委員長 この場でというのも急ですので、今後、事務局と調整しながら、とい

うことでよろしいでしょうか。

市史研究ですので、研究として書いていただく、史料紹介等も学術的に書いていただくことが必要かと思います。

石碑・石仏のコーナーも、基本的には編さん室の方で調整いただけるということでよろしいでしょうか。

事務局 はい。

委員長 では、そのような形でよろしいでしょうか。

委員 了承

6. 市史講演会について

委員長 次に市史講演会について、事務局からお願いします。

事務局 令和 2 年度につきましてはコロナの状況に配慮して中止しましたが、状況も少し落ち着いてきましたし、講演会をぜひやってほしいというご要望も寄せられていますので、令和 3 年度は開催したいと考えています。コロナの状況いかんでは急遽中止ということになるかもしれませんが、開催の方向で準備したいと思っております。

市史の刊行も始まりましたので、市史講演会は、そのとき刊行した部会に講師をお願いし、刊行の PR もしたいと考えています。古代・中世の資料編が出たあと、コロナの影響で講演会ができませんでしたので、今年度お願いできればと考えております。

委員長 いかがでしょうか。浅倉先生には、以前に一度ご講演いただいておりますので、部会のどなたか他の方にお話しいただくのもひとつかと思えます。

古代・中世部会長 部会で責任を持って、させていただきたいと思います。開催日はいつごろをお考えですか。

事務局 会場都合もあり、3 月 22 日を考えております。月曜が祝日の週の火曜日ですが、意図としては多くの博物館や図書館が休館日である日に開催することで、関心を持ってくださる学芸員や司書の方々に聞いていただけるのではという思いがあります。資料編や補遺をお買い求めの学芸員や研究者の方から、これ一冊あればいいと言えるほど充実した内容だといったお声もいただいておりますし、市史講演会で執筆者からのお話が聞ければ喜んでいただけるのではないかと考えております。

お話しいただくのは 2 時間程度、時間帯は講師のご都合でお決めいただいてよいかと思います。

これまでの市史講演会は、清瀬駅北口のアミュービルにあります講座室で行ってきましたが、今回は同じビル最上階のアミューホールでの開催を考えております。少し広い会場を確保しました。

古代・中世部会長

承知しました。部会のなかで調整し、お返事したいと思います。

委員長

それでは、市史講演会は、今年度は開催、講師は古代・中世部会の先生にお願いするということで、よろしいでしょうか。

委員

了承

7. 清瀬市史編さん委員会の開催回数について

委員長

次に、清瀬市史編さん委員会の開催回数について、事務局からお願いします。

事務局

これまで年 3 回開催し、委員のみなさまに、市史編さんの進め方や、刊行に係る装丁や内容についてのご意見をいただいてまいりました。おかげさまで基本方針の策定や見直しを行ない、刊行物の形式も定めることができましたので、来年度は年 2 回に変更し、通史編刊行など大きなテーマがあるときには開催回数を再考するという方向で考えたいと思います。

委員長

では、来年度は 2 回開催に変更し、通史編刊行など大きな議題があるときには 3 回に戻すということですが、ご意見いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

委員

了承

8. その他

委員長

それでは、議題 8「その他」、ですが、今後の課題について私からお話したいと思います。

現代の資料編の目次案を見ていただきますと、特に 2 枚目にあります十一章の医療、また十二章の結核療養と文化について、これが 60 ページずつ計 120 ページの配分となっています。

これまでの調査のなかで例えばリハビリテーション学院の資料が膨大に出てきたり、清瀬病院の病院ニュースや、東京療養所の日誌などが見つかっております。療養所には石田波郷がいて、現在の俳句大会にもつながっていますし、また吉行淳之介も入院していた。そうした関連の資

料が多く見つかった現状で、それを 120 ページに押し込むのは無理があるのではないかと、私としては考えています。

渋谷金太郎市長は、結核療養の歴史を清瀬の特徴としてアピールしていくという姿勢をお持ちですし、特に戦後史のなかで結核療養所群による病院街の成り立ち、療養所の文化は、大きな分量を示すのではないかと考えます。この部分で一冊の資料集ができる分量が集まっているにもかかわらず、それをここに押し込めるのは、清瀬の特徴として、もったいないのではないかと考えます。以上を勘案すると、刊行計画を変更することになりますが、清瀬の結核療養について、別冊として 1 冊多く作った方がよいのではないかと考えます。

昭和のはじめに東京府立清瀬病院が出来て以降、昔ながらの村が芝山地域を中心に大きく変わっていきます。療養者が多く入り、また戦後に引揚者の住宅ができ、のちに都営住宅ができていくという過程で、清瀬が大きく変わった近代、現代の特徴があると思います。

さきほど、近代部会長から民俗のグループができたというお話がありました。例えば団地の民俗について、最近は都市民俗学という分野もありますが、近代、現代の生活と密接にかかわる部分、行事や祭りとは別の、もっと地味に生活にかかわる部分の調査を、民俗の専門家を中心に組織されたグループで行っていただいています。新しい生活変化というところを中心に、従来の民俗も取り入れながら近現代の生活変化について、「民俗編」という形で 1 冊作らせていただき、通史編を書く時には統合した形で清瀬の歴史の流れに組み込んでいきたいと考えます。

以前の『清瀬市史』には近現代の叙述がありませんでしたから、今回は近現代を重視した形で清瀬市史を充実させたいと思うのです。

もうひとつ、通史編を上下 2 冊に分けるという提案です。令和 7 年度には、考古、古代・中世、近世までを通史編の上巻として刊行し、仮の案ですが令和 8 年、9 年にそれぞれ「民俗編」と「結核療養編」を、そして令和 10 年度に通史編の下巻として、近代、現代、民俗の調査に基づいて生活の変化を組み込んだ中で作っていくという刊行計画です。

刊行年度が長引いても、冊数を増やして、地域の特徴を取り込んだ充実した市史を作らせていただきたいというのが、ひとつです。

まとめますと、通史編の上巻を今までの予定で令和 7 年に刊行したあと、「民俗編」「結核療養編」を出し、通史編の下巻をつくる。そういう形にしますと、部会調査のなかで見つかった新しい資料をきちんと市民のみなさんに公開できるということ、戦中、戦後に清瀬に入ってきた方たちの生活や社会というものも、そこに組み込むことができる。この形

で通史編の下巻ができれば、本当の清瀬市史になっていくのではないかと考えます。

これまで、全体の計画を打ち立てる中で、一連の刊行が終わっても編さん活動が終わるわけではないという話をしてきたところでもあり、刊行計画を変えることにはなりますが、清瀬市史の充実につながることで、民俗編、結核療養編を 1 冊ずつ出すこと、通史編を上下巻に分けて刊行することをご提案いたします。

近代部会長、現代部会長から、何かございますでしょうか。

現代部会長

例えば救世軍の療養所資料など、ここに来て病院からいい資料が出て来ております。こうしたものを資料編の一角に入れようとすると、集まった資料の百分の一ほどしか使えない話になってしまいます。題名はこれから決めるとしても、病院の内部の資料は地域資料とは性格が異なることもあり、病院についてだけで 1 冊作っていただけると、とてもすっきりした形になると思いますし、他市の市史に病院編があるなどという話は聞いたことがありませんから、清瀬で病院編を出すことによって、特徴が出せると考え、大賛成です。

近代部会長

清瀬の特徴は、病院街と団地ですが、団地に関しては、今のところ文書史料が探せていません。そこをカバーするのが、民俗学が中心になっている聞き取り調査、オーラルヒストリーというものですので、民俗学の成果を積極的に取り入れながら清瀬の特徴を出したいと思いますので、ぜひご検討いただきたいです。

委員長

ご意見いただきたいと思います

委員

民俗学をとりいれるのは結構なことと思います。清瀬も昭和 30 年代までは自給自足に近いような生活でした。今のような石油製品を使った生活とは切り離されていて、廃棄物はなるべく自分のところで処理するか、ごく少量のガラスの破片や金属物などは小さな廃物を入れる箱があってそこに入れるといった暮らしでした。そのあと高度経済成長の時期になってから石油化学製品、特にプラスチックですが、これを使う生活で消費構造が変わった。世の中はいま、世界的に SDGS といった考えが出てきますが、清瀬が歴史的に段階的にどの段階にあったかという本ができるとうるやうなのではないかと考えます。

また、さきほど聞き取りの話が出ましたが、郷土博物館には以前行なった聞き取り調査のテープがたくさんあります。埋もれたままにしておくのはもったいないので、ぜひ活用してほしいと思います。

近代部会長

活用していく予定です。ここで調査しないと失われていくものが多いと思いますので、しっかり調査したいと思っています。

委員長
委員

ほかに、いかがでしょうか。

農業について言うと、竹丘から下宿まで地域によって作られている作物も違います。土地の特性も違いますから。耕し手も違います。

三清戸ではコメのめしを食べたことがないと言われました。水田がありませんから米は陸稲でした。日照りが続くと、まるきり収穫できませんでした。昭和 26 年にコメの配給が始まって初めて米のめしを食うことができたという時代がありました。庶民の暮らしはそういうことでした。一般の家庭の生活を調べてみると今とは全く違ったものが見えると思います。大きな道路が通ると何軒かの農家がだめになりますし。

昭和の時代は、日本が大きく変わった時代ですから、大正、昭和の時代についてきっちりと調べて残していただきたいです。

委員長
委員

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

民俗、病院について独立して 1 冊ずつにするのは大賛成です。市民にとって身近なテーマですので、そのことによって市史が身近に感じられると思いますので賛成です。

ひとつ加えたいのは、自然というテーマです。自然も清瀬の大きな特徴だと思います。自然について前にお話しました折には、時代区分のなかで扱うということでしたが、今のお話のように構成の変更が可能なのであれば、自然についても独立して 1 冊にできないかと思いますが、いかがでしょうか。さきほどの農業の話にも関連すると思いますし、戦後発展のなかで団地ができていくときにもほとんどの場合は農地や樹林がつぶされていったわけです。そういった人々の暮らしと、雑木林を代表とする自然ですが、その関わりについて市民のみなさんに知ってほしいと思います。雑木林は今でも減少して、宅地化しています。そういう現状を書いて残してほしいと思っています。

統括監

貴重なご提案をいただいたと思います。いずれにしても方針なり計画を見直すことになりますので、いったん事務局で整理しまして、庁内の意志もありますので、調整の上またご相談させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

委員長
事務局

他によろしいでしょうか。

次回の委員会の日程ですが、3 月後半の開催を考えています。近づきましたらまた日程のご相談をさせていただきますのでご協力よろしくお願い致します。

委員長

次回委員会は 3 月後半予定ということで、ご予定いただければと思います。

ほかに、よろしいでしょうか。

委 員 了承

9. 閉 会

委 員 長 それではこれで令和 3 度第 1 回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

【資料 I】

『清瀬市史 6 資料編 現代』について

- ・ タイムスケジュール
- ・ 基本の方針と特色等
- ・ 目次案と頁数配分等

『清瀬市史 6 資料編 現代』タイムスケジュール

2021.11

令和3年 11月	12月	令和4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
-------------	-----	------------	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----

各執筆者

資料調査・収集・撮影 (以降、新出資料等があれば随時)

掲載資料原稿作成

資料部分原稿原本照合

解説原稿作成

他分野読み合わせ・修正

図版確定

初校

再校

念校

色校

編集作業

資料構成確定・表記統一

ページ割り付け

解説原稿表記統一

原稿入稿

原稿チェック・修正

事務局チェック

事務局掲載許可

掲載許可申請

納品

1. 基本的方針と特色

市民に受け入れやすい資料編にするため「現代」については、つぎのような編集方針をとる。

(1) 基本的に時代別に構成するものの、一部の項目については、包括的に独立した章立てとする。独立した章立てにするものは、つぎの6項目である。

- ①青年学校日誌
- ②農地改革
- ③伝統文化と保存（信仰・社寺）
- ④医療
- ⑤結核療養と文化
- ⑥東日本大震災

(2) ビジュアルな資料編の作成

通史編が全体として一冊であり、多くの写真や看板、物品等が提供されているにも関わらず、使用されずに編さんを終える可能性を考慮してのことである。また、現代編の時代的特質からも、写真を積極的に利用できるものとする。

- ①カラーページは巻頭の口絵の24頁とし、本書を手にとった市民にとって親しみがわくものとする。
- ②各章の扉には図版を用いる。
- ③「結核療養と文化」のページにおいては、多くの図版を資料として掲載する。
- ④他のページにおいては、原則、図版そのものを資料として掲載するのではなく、解説に写真等の図版類を掲載し、一般の市民にとって親しみやすいものとする（例外として公文書に掲載されている概念図、略地図などは、資料の一部として扱う）。

(3) 病院街については「医療」「結核療養と文化」だけでなく各分野においても扱う事にする。

例	病院街の道路	→	交通・土木	患者同盟の運動	→	社会運動
	病院街の商店	→	商工業	患者への公的扶助	→	行政

2. 書式 B5（原稿はA4） 縦書き 29字×22行×2段 （1ページ1276字）

3. 頁数 本扉1頁4色

口絵24頁4色（巻頭）

本文800頁1色

『清瀬市史 6 資料編 現代』目次案

2021. 11

	頁数	備 考
第一章 清瀬のすがた	20	地誌・概要類
第二章 昭和恐慌から戦争へ	84	
第一節 政党政治から戦時体制へ	10	各村長 1 期 4 年で交代
第二節 恐慌と戦時下の行財政	20	
第三節 地主制から戦時農業へ	14	
第四節 戦前戦中の鉄道と道	10	
第五節 戦前戦中の生活・防災	10	
第六節 戦前戦中の教育	10	
第七節 村と戦争	10	
第三章 青年学校の世界	44	昭和 10～19 年度青年学校日誌
第四章 戦後改革から町制施行へ	94	
第一節 戦後改革と革新村政	10	村長 村野庄司 → 嶋田繁正
第二節 清瀬町の誕生	20	昭和 29 年町制施行
第三節 戦後の農業と商工業	14	
第四節 戦後の交通	10	
第五節 戦後の生活と社会運動	10	
第六節 戦後教育の出発	20	
第七節 戦後処理と引揚	10	
第五章 農地改革下の村	30	農地改革異議申立書
第六章 高度経済成長と清瀬	106	
第一節 人口急増下の市政	10	町長→市長 渋谷邦蔵
第二節 清瀬市の誕生	20	昭和 45 年市制施行
第三節 工業や商工業の発展	14	
第四節 交通の発達	14	
第五節 団地とベッドタウン化	24	
第六節 高度成長期の教育	24	
第七章 安定成長からバブル経済へ	106	
第一節 都市化の中の市政	10	市長 渋谷邦蔵
第二節 近郊都市の行政	20	
第三節 都市農業と商工業の変化	14	
第四節 変わる交通	14	
第五節 都市化と農村	24	
第六節 教育問題と地域	24	

第八章 平成不況下の清瀬	106	
第一節 平成の市政	10	市長 星野繁
第二節 不況下の行財政	20	
第三節 変わる農業と商工業	14	
第四節 交通の課題	14	
第五節 労働運動の再編と市民生活	24	
第六節 少子高齢社会の教育	24	
第九章 文化財の保存と神社・寺院	50	
第一〇章 東日本大震災と清瀬	20	
第一一章 清瀬の医療	60	
第一二章 結核療養と文化	60	
統計・データ編	20	
合 計	800	

『市史研究 きよせ』第7号 構成案（割付）

<見開きイメージ>			<内容等>
口絵1	近世表紙	(表紙裏)	
口絵2-3	きよせ懐かし写真館		
口絵4・本文1	目次		
本文2-3	近世紹介		
本文4-5	刊行物紹介		
本文6-7	1	現代部会 リハ学資料調査報告	
本文8-9	2		
本文10-11	3		
本文12-13	4		
本文14-15	5		
本文16-17	6		
本文18-19	7		
本文20-21	8		
本文22-23	9		
本文24-25	10		
本文26-27	11		
本文28-29	12		
本文30-31	13		
本文32-33	1	10p～18p どなたか	
本文34-35	2		
本文36-37	3		
本文38-39	4		
本文40-41	5		
本文42-43	6		
本文44-45	7		
本文46-47	8		
本文48-49	9		
本文50-51	専門部会活動報告 5部会	考古部会	
本文52-53		古代・中世部会	
本文54-55		近世部会	
本文56-57		近代部会	
本文58-59		現代部会	
本文60-61	民俗グループ始動		
本文62-63	石碑・石仏		
本文64-65	コロナ関連		
本文66-67			
本文68-69	市史編さん覚書	基本方針・刊行計画等	
本文70-71			
本文72-73	「ブンガくんと文学散歩」タイトル	新ブログ紹介	
本文74-75	各ブログ画像紹介	「文学散歩」「市史で候」	
本文76-77	「市史で候」タイトル	「市史で候」バックナンバー タイトル一覧	
本文78-79			
本文80-81	市史研究等バックナンバー紹介（目次）	「市史研究」バックナンバー 目次一覧	
本文82-83			
本文84-85	関係者名簿		
本文86-87	書誌	予備	
本文88	(裏表紙裏)	予備	